

生物言語学における自然主義的アプローチについて

上田 雅信（北海道大学）

生物言語学は心と言語の研究に対する自然主義的アプローチと呼ばれる。自然主義的アプローチでは、心的あるいは言語的な現象、出来事、過程、状態は、世界の他の側面、例えば、化学的な現象、出来事、過程、状態と同様に世界を構成する一側面であり、これらの側面の間に存在論的な分裂は存在しないと仮定し、化学的な側面など世界の他の側面と同様に、自然科学の方法を用いて心的側面や言語的な側面を研究することができるかと主張する。そして、心や言語に対する自然主義的アプローチは17世紀の科学革命にまで遡ると考えられている。

ワークショップでは、科学史・科学哲学的な観点を背景として、生物言語学の自然主義的アプローチの方法論的・概念的な性質の少なくともその一部を明確にすることを試みる。特に、生物言語学がその解明を目的としている普遍文法(UG)のメカニズムの概念に焦点を当てて、行動生物学のメカニズムの概念とどのように異なるか、また異なっているとしたらなぜ異なっているのかについても考察する。さらにこの試みが現在の生物言語学の研究戦略であるミニマリスト・プログラムの主要な課題となっている統合問題（他の自然科学の分野と生物言語学との統合）に対してどのような方法論的含意をもつかについても検討したい。